

2010 年度受託研究概要報告

工楽松右衛門が開発した帆布の復元、および商品開発

研究メンバー

野口正孝 デザイン学部ファッションデザイン学科教授

委託者

高砂ブランド協会

研究概要

- 兵庫県高砂出身の工楽松右衛門が 年 年に考案した帆布を今日の技術で復元する。
- 神戸大学海事博物館が所蔵している松右衛門帆や各地に残されている同帆の資料の調査・分析を行う。
- 地域独自の商品を開発するため、高砂のイメージを織り柄にデザインし、マルチカラーの帆布の織布を行う。
- その帆布を用いてトートバック等を試作する。
- 「高砂駅前観光案内所ちちり」で調査販売を行うことを目的に製品の生産を行う。



写真1 高砂駅前観光案内所ちちり



写真2 松右衛門帆の製品販売風景

研究成果

- 神戸大学海事博物館が所蔵している松右衛門帆を調査し、糸の種類や太さ、織りの組織の分析を行った。また、日本の各地で近年まで使われていた松右衛門帆を千葉県「関宿博物館」や滋賀県「北淡丸子船の館」などで調査を行った。
- 調査結果を基に今日の技術で、製糸、織布を行い、松右衛門帆の復元を行った。
- 織り上がった白無地の帆布を用いて、実物大の船の帆を制作し、高砂市で開催される「万灯祭」で帆を揚げて展示した。
- 高砂の美しい砂浜を賞賛した「白砂松陽」という言葉からの「白い砂浜 sable」「緑の松林 pain」「青い海と空 seasky」「赤く沈む夕日 sunset」をイメージして4柄のマルチカラーの織り柄をデザインし、先染めの帆布の織布を行った。
- マルチカラーの帆布を用いてトートバックとショルダーバッグをデザインし、その試作を行った。
- 高砂駅前「観光案内所ちちり（兵庫県高砂市高砂町船頭町 1305）」で調査販売を目的にして、試作を行ったトートバックの生産を行った。



写真3 万灯祭での松右衛門帆の展示風景